

## 第13講 GIS演習①～都市の高齢化と課題～

### 0. 前回までの学習内容をふまえて…

・日本の人口問題や都市・居住問題は、「過密化した東京（首都圏）」と、「高齢化・過疎化した地方」という対立構造で描かれることが多いです。しかし、少子高齢化が全国的に進行していることをふまえると、「高齢化・過疎化」とそれに伴う問題が発生しているのは地方だけなのでしょうか…。

### 1. 本日のテーマ

「」

#### 【前回までの内容の確認と補足】

・老年人口比率：〔〕歳以上の人口割合のこと。日本全体の比率は〔〕%（2024）。

この比率が50%を超え、社会的な生活の維持が困難となった集落は

〔〕と呼ばれる。

・〔〕：食料品や日用品などの日常的な買い物が困難になった人々を指す。

過疎化や少子高齢化、近隣への大規模商業施設の出店などに伴い小売店が撤退し、

公共交通が衰退したり、高齢化により自家用車の運転が難しくなったりすることで

発生する。

・フードデザート（食の砂漠）⇒意味を調べてみよう！（第12講のお題です）

Q. 小売店や駅、バス停から「遠い」とは、どのくらいの距離を指すのだろうか？

→こうした議論がなされる場合、スーパーマーケットとの距離が〔〕m程度よりも遠い地域が

「アクセスが悪い」とされることが多い。また、駅とは〔〕m程度、バス停とは〔〕m

程度よりも遠い地域が、「交通不便地域」とされることが多い。

ただし、直線距離だけではなく、「高低差が激しい」「大きな道路を渡らなければいけない」「線路や河川があり、直線的に移動できない」などの要因で移動が困難な場合もある。

また、買い物難民となりやすいのは高齢者であることをふまえると、より短い距離でも移動が難しい場合も考えられる。

#### 【参考】

① 「『食の砂漠』都心にも買い物難民 大型開発で住環境変化」

（日本経済新聞 2023/12/10）

② 「横浜市内2区で走るコンビニ 買い物弱者を支援」

（産経新聞 2020/4/10）

①



②



**作業** 様々な GIS サービスを使って、近隣地域の人口、都市・居住問題について調べてみよう！

私たちが調べたのは、[ 県・都 市・区 地区] です。

1. 老年人口比率が高い地域は、都市部でも存在するのか？

→ 「jstat map」を使って探してみよう。どんなところで、老年人口比率が高くなりやすいだろう？

(資料プリントの手順①を確認)

<メモ>

2. 鉄道の駅やバス停からの距離が遠い地域は、都市部でも存在するのか？

→ 「opne hinata」を使って、探してみよう。(資料プリントの手順②を確認)

<メモ>

3. 生鮮食品を取り扱うスーパーマーケットが少ない(存在しない)地域は、都市部でも存在するのか？

→ 「ロケスマweb」を使って、探してみよう。どんなところで、小売店が少なくなりやすいだろう？

(資料プリントの手順③を確認)

<メモ>

4. 3で調べた店舗の場所を、2の地図に重ねてみよう！(資料プリントの手順④を確認)

<メモ>

5. 1~3 をすべて満たす地域(あるいは2/3で満たす地域)はあるだろうか…？

→探してみよう！ 見つけた地域のスクショを撮り、スライドにまとめよう。

<メモ>

→このような地域は、

買い物難民、フードデザートといった現象が発生している可能性がある地域かもしれない。